

O022-P08

会場:コンベンションホール

時間:5月23日 16:15-18:45

ジオパークをめざす下仁田町 Shimonita town trying for Geopark

ジオパーク下仁田協議会¹, 金井 康行³, 鈴木 英男², 関谷 友彦^{2*}

The council of geopark¹, yasuyuki kanai³, hideo suzuki², Tomohiko Sekiya^{2*}

¹ ジオパーク下仁田協議会, ² 下仁田教育委員会, ³ ジオパーク下仁田協議会会長

¹The council of geopark Shimonita, ²The Shimonita town board of education, ³The council of geopark Shimonita

下仁田町は群馬県の西南部に位置し、町域の形状は東西に約 18 キロメートル、南北約 10 キロメートルと東西に長く、周囲を、標高 1000 メートルを越える急峻な山々に囲まれ、総面積のうち約 85 パーセントが山林及び原野で占められています。

美しい山並みや清らかな溪流など、豊かな自然に恵まれた農山村であり、古くは関東と信越を結ぶ街道により交通の要衝として栄えた歴史ある町です。

人口は、昭和 30 年の町村合併当時 2 万人余りあったが、農林業、養蚕業などの衰退に伴い減少し、現在は 9106 人(平成 22 年 1 月 1 日異動人口)と半数以下となってしまいました。

現在、下仁田町はジオパーク登録に向けて活動をしています。

下仁田地域は日本列島の地質構造からみると西南日本と東北日本の接点にあたり、日本列島の生いたちを解明する上で重要なカギとなる現象が集中し、古くから地質調査に訪れる人も多く、「日本でも 5 指に入る貴重な場所」とも言われています。

主なものには、中央構造線にそって九州までつづいている「三波川結晶片岩と秩父中生層」や日本の地質百選に選定されている跡倉クリッペを代表とする「根なし山群」、複雑に入り組み日本列島のつくられた過程を解明するカギと言われる地質構造の「下仁田構造帯」や今から約 900 万年前に大陥没をおこした「本宿陥没」、厚さ 10 メートル幅 200 メートルにもわたる「関東ローム層の大露頭」などがあります。

その多くの地質現象が十数キロメートル以内に密集しており、まとめて観察できる地域は、他にないと思われます。

また、荒船山や妙義山など不思議な形の山もあり、地質について知識がなくてもジオを体感しながら登山やハイキングをすることもできます。

群馬県には「上毛かるた」と言う物があり「葱と蒟蒻・下仁田名産」とうたわれています。

現在、下仁田町は「葱と蒟蒻・ジオパーク」をキャッチフレーズにジオパーク登録活動を展開し町内外に PR しています。

平成 22 年 4 月からは、廃校になった小学校を自然史館としジオパーク推進の拠点とするなど、受け入れ態勢も整備しております。

今まで下仁田町は、研究者や関係者の間では「興味深い・とても面白い」と言われていましたが、今後は、その面白さを一般の人にも伝えるため、「わかりやすい解説・地元住民のガイドの育成・気楽に参加できるイベント」などを行い、町全体で盛り上げてジオパーク登録に向けて活動していきたいと考えています。

植物の名前を覚えながら登山をしたり、綺麗な川原の石を見つけたりするのも、ジオツーリズムと考えています。

これから陽気も暖かくなり、気楽に参加できるツアー・イベントも用意したいと考えております。

また、ほかにも日本で最初の高原式洋式牧場の「神津牧場」や約 45 種 5,000 本桜が妙義山をバックに咲く「さくらの里」、世界遺産の暫定登録となっている「富岡製糸場と絹産業遺産群」の「荒船風穴(屋敷の風穴)や上野鉄道鬼ヶ沢橋梁」などの見どころや蒟蒻手作り体験などの楽しみが沢山の下仁田町に、ぜひご来町ください。

キーワード: ジオパーク, 下仁田, クリッペ

Keywords: Geopark, shimonita town, Krippen